

第5回 枚方市景観懇話会 会議要録

日 時	平成 24 年 12 月 22 日 (土) 13:30~16:30
場 所	枚方市市民会館 1階 第3集会室
出席者	<p>【会員】</p> <p>(自然景観) 太田宏美、大橋憲一、島崎仁作、半明和夫、藤宗信子 堀内義章、三浦八千代</p> <p>(市街地景観) 岩橋康郎、金只英明、竹島健次、藤井由美、森川明 横山かおり</p> <p>(歴史景観) 井上良子、上原一恵、奥本圭子、清水源久、宝田豊昭 田村正巳</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>(大阪府立大学 大学院) 下村泰彦教授</p> <p>【市役所】</p> <p>(都市整備部) 向井室長、河本課長、長谷川課長代理、米田主任 木村主任</p> <p>【コンサルタント】</p> <p>(株式会社東京建設コンサルタント) 片山、田中_勉、藏本、田中_美</p>
欠席者	<p>【会員】</p> <p>(歴史景観) 大野賢</p>
内 容	<p>○会議要録の確認</p> <p>○グループ討議</p> <p>・「景観形成構想図」の検討・とりまとめ</p> <p>・景観改善手法の検討</p> <p>○グループ発表</p> <p>○講評</p>
資 料	<p>○次第</p> <p>○懇話会会員一覧</p> <p>○座席図</p> <p>○『第4回枚方市景観懇話会 会議要録』</p> <p>○資料1:「本日の進め方」</p> <p>○資料2:「前回の検討結果」</p> <p>○資料3:「景観改善検討場所」</p> <p>○ご意見用紙</p>

【案件説明等】

- 第4回枚方市景観懇話会の議事要録について、会員の承認を得た。
- 前回懇話会で出た意見を元に作成した「景観形成構想図(素案)」について、各グループで構想図の追加・修正点を検討していただいた。
- 前回懇話会で抽出した景観の改善が必要な箇所について、改善内容の検討を各グループで行っていただいた。
- 各グループの意見交換の内容をグループリーダー・チーム代表者に発表していただいた。
- オブザーバーからグループ発表の内容について講評をいただいた。

【発言内容】

●グループ発表

○市街地景観グループ

● 景観形成構想図について

- ・枚方市駅周辺に歴史景観や自然景観があるにもかかわらず、アクセスが電車しか無い。枚方市駅の周辺に大型バスの駐車場を整備して欲しい。
- ・枚方市駅北口から旧国道 1 号線を過ぎて、歩道になっている所を拡幅し、その先にある大木まで自動車が行き可能な道路となるよう整備してはどうか。その際、空が見えるような開放的な道路にすると良い。
- ・枚方市駅南口にあるビルは 1980 年代に建築されたビルで、1 階～7 階まで全て同じ床面積で建築されている。最近では 5 階くらいから上の階の床面積を小さくする手法が見られる。それにより、上層階を縮小した分、空が見えるようになるので、今後ビルを建築する際はこのような方法をとるべきである。

● 景観改善の検討結果について

①枚方市駅北ロータリー

- ・ビルの壁の色が薄い緑色で景観にあっていない。また、店舗の看板が景観を阻害しているため、壁の色を落ち着いた色で統一するべきである。
- ・北口ロータリーから少し外れると景観に不調和な店舗が並んでいる。駅周辺の景観として良くないので改善すべきである。

②枚方市駅南口西方道路

- ・UFJ 銀行前の歩道橋の階段は利用者がいないので、撤去すると見映えが良くなる。
- ・万年寺方向のビルの屋上看板を撤去することで、スカイラインが整い、緑で統一される。

③枚方市駅南ロータリー

- ・ロータリー中央に看板が設置されると視界を遮るので、撤去して、代わりに植栽する。
- ・ビルの高さ・床面積を縮小することで、空が見えるようにする。
- ・ロータリーを取り囲む歩道橋に花壇を設置することで、気持ち良く利用できるようにする。
- ・駅から出ると、正面のビルが日陰となり、暗いイメージを与えるので、周辺のビルも含め壁の色を明るい色で統一すると良い。

④ビオルネ前道路

- ・ビオルネの対面側の歩道に緑が少ないので植樹する。
- ・壁の色を統一する。

⑤枚方市駅南口東方道路

- ・電柱・電線を地中化することで、スッキリさせる。
- ・道路に植栽を行う。

- ・アスファルト歩道をブロック舗装で統一する。また、ガードレールもデザイン性に優れたもので統一する。

○自然景観グループ

● 景観形成構想図について

- ・枚方市のコンセプト「健康医療都市・教育文化都市」のPRが少ない。
- ・例えば、教育の面では枚方市内に6つの大学があり、教育的に優れた環境であることをPRする必要がある。
- ・枚方市は西に淀川、東に津田山、穂谷に棚田があり、緑が多いのだが、枚方市駅前には緑が無い。
- ・PRする際は、のぼりのように無粋なものは避けて、洒落た看板にすると効果的である。
- ・テレビやパンフレットによる観光スポットのPRが必要である。
- ・重要景観資源などに行きやすいように、案内板や駐輪場も整備する必要がある。
- ・官民一体で住みよいまちづくりを行うべきで、そのなかで自然を守る活動も一体となって行うべきである。

● 景観改善の検討結果について

①（淀川・天野川周辺）枚方水辺公園

- ・枚方大橋の見映えが殺風景なので、デザイン性に優れた橋に電飾などを施すと良い。
- ・雑草が生えているので、定期的な清掃を実施することが必要である。
- ・トイレを適切に整備する。簡易トイレでも壁だけは景観を意識したデザインとする。
- ・土手の鉄柵は必要ならば、きちんと整備すべきで、不要ならば撤去すべき。

②（淀川・天野川周辺）天野川・禁野橋

- ・人と自然とが共生出来るような遊歩道を整備すると良い。
- ・美化活動を行う必要がある。
- ・土手の上に街灯を設置すべき。
- ・ガードレールは景観性に優れていて遊び心のあるデザインにするべき。
- ・流れの緩急など多様な環境を残すべきである。
- ・看板の位置、色を景観に配慮して変更すべきである。
- ・ホテルや魚を守っていくという意識を市民に浸透させ、市民を巻き込んだ活動を行うと良い。

③（万年寺山周辺）御茶屋御殿跡展望広場入口

- ・階段前や広場入口などに設置されている案内板のデザインがバラバラなので統一する。
- ・広場と一体感を出すために歩道を石畳などに統一する。
- ・車止めや階段の手摺などを金属のものではなく、木目調のものにする。

④（万年寺山周辺）御茶屋御殿跡展望広場

- ・マンションなどで見晴らしが悪い箇所は植樹で塞ぐ。
- ・ベンチなどの休憩スペースやトイレを整備する。
- ・街灯のデザイン・色を階段の街灯に統一するべき。
- ・見晴らしの良い地点の前のフェンスを景観に配慮したものとなるよう工夫が必要である。低木植栽などを行うべき。
- ・見晴らしの良い地点が一目でわかるように、その地点のみ石畳の舗装の色を変えるなどの工夫をするべき。

⑤（万年寺山周辺）枚方公園駅南口

- ・駅からおりてすぐの住宅地が見える箇所を植栽で見えなくし、居住区域とひらかたパークへのルートを分離する。
- ・枚方公園駅周辺の色（舗装・壁面）とひらかたパークの色を統一させる。

○歴史景観グループ

● 景観形成構想図について

- ・西の見附から東の見附までを「特徴的な景観が求められる区間」に指定して欲しい。
- ・桜新地に見られるベンガラ格子などは、今後観光資源として活用できるような方策を検討して欲しい。
- ・西の見附、郵便の渡し、明治の洪水の碑、本陣跡、枚方橋跡などをランドマークとして整備すべきと思う。

● 景観改善の検討結果について

①枚方宿・専光寺付近

- ・自動販売機が目立っているので、自動販売機前に格子を設置し、目立たなくすることで柔らかい感じにする。
- ・壁面の色を茶系の色に統一する。
- ・看板は撤去するか、茶系の色で統一する。
- ・電柱の受電盤などの街道沿いの設備の位置を街道から見えにくい位置に変更することで目立たなくする努力をするべき。
- ・枚方宿の主旨「歴史的まちなみの形成」を考えてみんなでよりよいまちづくりをすべきである。

②枚方宿・宗左の辻付近

- ・看板に圧迫感がある。街道筋の看板は規格や色を統一するべきと思う。
- ・自動販売機も同様に茶系の色で統一すべき。

③枚方宿・枚方橋

- ・橋（南東側）のビルの外壁の色を景観に配慮して茶系にする。
- ・欄干脇の電柱の色を白系にする。
- ・波板の壁に圧迫感があるので、撤去する。無理ならばせめて高さを半分にする。
- ・歩道部分は歴史街道の延長として、石畳を整備すべき。
- ・駐車場の赤い看板を景観に配慮するものとなるよう色を変更すべき。

④枚方宿・新町①

- ・電柱が多いので地中化させるなどして撤去する。
- ・自動販売機・住宅の壁などを景観に配慮した色（茶系）にする。
- ・駐車場のフェンスが歴史街道の景観として相応しくないなので、木目調などに変更する。
- ・建築する建物の高さを制限する。

⑤枚方宿・新町②

- ・案内板が低すぎるので高くすべきという意見とこのままで良いという意見の両方があった。

●講評

（オブザーバー）

- ・景観を考えるときに大事なことは「あるべき風景がそこにあるか」ということで、自然・市街地・歴史についてそこにあるべき景色、あったら良い景色をどう守るか、どう修復するのが大事です。
- ・詳細な景観の作り方には色々な方法があり、例えば、市街地グループの発表では、建築物・道路が中心の街並みの中にどう緑を入れるかという話がありましたが、一方で、歴史的な道に緑がいるのかという話もあります。この場合、歴史的な道の緑は道沿いに植栽するのではなく、各敷地内に緑を植えて、その緑が塀の上、目線よりも上に出てくるべきと思います。
- ・建築物のスリム化の話がありましたが、敷地内に緑化スペースを確保させるために、建築物の建ぺい率を下げます（敷地に対する建築物の面積を小さくする）。その代わりに容積率（敷地に対して建築物全体でどれくらい床面積を確保できるかを定めた割合）を上げます（高さを高くする）という制度があります。都市計画法の「特定街区」と建築基準法の「総合設計制度」がこの制度であり、これらにより公開空地が作られています。この「総合設計制度」は、大阪市内では多く見られ、枚方市でも例があります。このような方法で都市内の緑地を増やす方法もあります。
- ・街路に緑を植える場合、街路樹として道（公有地）に植える場合と私有地に植える場合があり、植栽の担い手が変わります。また、維持管理についても行政が行う方法や市民が行う方法があります。先ほど協働という言葉が出ていましたが、このように総合的に考えていかないといけません。これが景観を考える中で難しいところです。

- ・看板については、大きいから売り上げが良くなるという根拠はありません。行政と業者で協議をして決めていく必要があります。看板について枚方市はうるさいということを経営者に対してアピールする方法もあります。
- ・「花を植えてください」ではなく「花を植えます」という意識を市民が持つことが必要です。
- ・今後、景観基本計画と景観計画を策定し、さらに詳細な内容についてのガイドラインを作っていく中で、景観を良くするために自分たちに何ができるのかということを経営者がリーダーとなって考えてもらいたいと思います。このような「自分たちで何か行動を起こす」という考え方と「実際に行動を起こす」ということを今後も継続して行って欲しいと思います。
- ・自然景観グループの発表であった枚方大橋を例に挙げると、吊橋のような橋として認識されやすい構造に改修することで景観が良くなったという人もいれば、遠景が見えなくなったという人もいて賛否両論になると思いますので、みんなで話し合っただろうべきなのかを決めていく必要があります。
- ・色んなところを見て、あるべき風景は何なのか、景観を良くするために誰が担い手になるのかを考えて、私たちでできることは私たちで行動を起こすことが必要です。
- ・次回でこの枚方市景観懇話会は最後ですが、この枚方市景観懇話会が終わった後、皆さんが地元へ戻られて、地域の方々と景観を良くするための活動を実行していただき、行政の方からまた景観についての協力を皆さんにお願いした場合には、また、ご参加していただくというキャッチボールを続けていながらこの輪を広げていきたいと思っています。意見の違う人がどのように考えているのか理解していただいた上で取組みを進めていくことが大事です。
- ・道路、建築物、民有地、看板、道路占有物など細かいもののデザインやその場所に相応しい色彩などを今後、景観基本計画、景観計画やガイドラインで検討していく必要があります。

以 上